

10月号より3回に渡った「岡田 清のセット釣り編」。

今回でいよいよ完結となる。

先月号発売直後より、「次号まで待てない」という声を多数頂いた。と同時に、「浦島太郎が何を生意気な」という声も頂いている。

誌面の都合で今回コメントのない江成公隆に代わり、申し上げます。

あくまでも「イメージの世界」なのである。読者諸兄それぞれの自由なイメージ作りの参考になれば、幸いである、と。それでは、いってみよっ！ by 里

この物語は、  
栄光、そして挫折を味わい、  
今、再び這い上がろうとする一人の男の人間ドラマである。

# 江成公隆の トーナメント、 復活への道。

text and photo by Kimitaka Enari and Satoshi Tanaka  
業界初、Web運動企画！ (URL) <http://hesar.yokohamaturumi.net>

## 〈Vol.6〉スーパーチャンプ岡田 清のセット釣り③

### 「距離感」と「粒子感」

#### チャンプとの一問一答。

(先月号より続く)

Q (江成) クワセの選択基準について話して下さい。やっぱり魚の状態に応じた下ハリスの張り具合を第一に使い分けてるんですよ？

A (岡田) クワセの比重ということ言ってるんだよね。これはハリスの大きさやハリスの長さでも微調整出来るからそれだけとは言えませんが、大事な部分だと思いません。でもやっぱり第一は魚の活性ですね。バラケに

対する反応が弱い時は、より固形に近い方がいい。もちろん活性が高く、ハリスが張らなくてウドンという事もありますね。

要するに、魚の活性と、仕掛けの張りの両方を複合的に判断するという事です。こちら辺は以前から変わっていないと思えますよ。ホントはウキの動きを見て判断しなくちゃいけないから江成君的には書きたくないだろうけど、決まる可能性で順番を付けるなら、暖期ならトク巻き、ウドンの順だよ。(注…角麩は禁止の池が多いため除外しました) 本当は探りを入れる意味では、ハリスが張る分最初はウドンがいいんだけど、時間がなればやっぱりトク巻きから試します。

Q 今日(9月取材時)はウドンから入ったよね。探り？

「ええ、探りから見た場合、そのセットについて」

A いえ、羽生はウドンがいい事の方が多いんです。もちろんトク巻きでも釣れると思えますけどね。これが江成君の言うところの「データ」ってやつです(笑)。もしかしたら今日はトク巻きの方がいいかも知れない。でも、短時間のトーナメントだったら決め打ちだよ。もしここがはじめての釣り場なら、セットの前に時期的に両ダンゴから入るよね(笑)。

Q そーなんだ。羽生はウドンがいいのかあ。かわりにでかい下バリ+トク巻きってのは効く？

A そういうのは江成君好きだよ(笑)。まあ、ウドンと同じ比重を目指すという点は理解出来ますけど…。試してみたら？ 江成君の頃よりは確実にトク巻きにエサ慣れしていると思うよ。もしトク巻きだけで例会っていう決めであれば、有効かもしれないですけどね(笑)。

Q 「どっち食ってきてもいい」セット釣りって、僕はちよっと違和感があるの。極限まで行くと、下バリはオマケで、上の一本バリのダンゴ釣りって捉えている人もいるようだし。2本バリ規定のある池では違反じゃないだろうけど、ちよっと…。残念ながら短バリ短段階でイケイケの頃、僕もよく誤解されたんだよ。

A 分かりますよ。僕も積極的に上バリを食わせていくつもりはありません。もちろん釣ればラッキーですけどね。

江成君の言うように、ダンゴがひとつになると反応が強まって、そういう釣りになる事がありますね。僕の場合、あまり連チャンで上にはばかり来る時は、釣りを組み立て直すタイミングだと捉えています。バラケを直すのか、両ダンゴへ変更するかはケースバイケースですけどね。よく「バラケはダンゴ感覚で」って言葉が使われるんですけど、下バリもあるんですよ。無反応なら無視出来ますが、そんなハズはないんです。その辺をどう対処していくんだらうっていつも感じるんです。まさか上下逆にエサ付けする訳じゃないだろうし…。例えば、椎の木湖でどっち食ってきてもいいという感覚で40kg釣れるとします。でも、下バリに食わせる事を意識して釣ると80kg釣れる。こういう事ってあるんですよ。40kgで十分満足するという人は別にいいですよ。楽しみ方は人それぞれですからね。これは江成君の口ぐせだったね(笑)。でもこの企画の主旨はトーナメント志向でしょ？ だからやっぱり80kgになる方の心構えを喋っちゃったんですけど。少し書くよね？ ああ、生意気言っちゃったなあ…。

江成 バッチリ書かせて頂きますよ！

何気ない一言の中に、岡田清の凄みが滲み出ていると考えるのは編者だけであろうか。その「凄み」をさりげない切り口で見事に炙り出している江成も見事だが、現在、無敵の強さを誇っている岡田清の強さの秘密が、少しだけ分かったような気がした。

それでは、「ええ理論」にGO！(里)



バラケの拡散範囲に対して、へらがどの位置にいるのか。僕達はこのイメージを「距離感」と呼んできた。探りをいれる役割はもちろん下ハリス。サワリや糸ズレからへらの位置をイメージし、理想の動きになるまでハリスを詰めていく。そのためには予想されるハリス長よりも長めで入らなければならない。それでも何も動きがなければ出だしのハリスが短すぎたという事だ。何も難しい言い回しをしなくとも、一般的に行われているセッティングの調整法である。が、その方法で得られた情報をもう少し有効に使う事が出来ないだろうか。例えばバラケの方向性を変えざるを得なくなった時、それまで使っていたバラケの時のセッティングは何の参考にもならないのだろうか。また一からやり直しでは時間の無駄になる。これが僕達のイメージ作りの出発点だった。

### ●バラケの拡散範囲とへらの位置

一般的な方法で探った下ハリスの長さは、へらの位置(クワセを置くべき位置)を示していると言える。(厳密に言えば、下ハリスによるタナでのタメひとつとってみても、使用しているクワセの比重や針の大きさなどでいくらかは変化するが、ここではあえてシンプルに考えたい) その時の上ハリスの長さとの差分が段差である。当たり前である。

多くの人には上バリから下バリまでのこの距離を重要視するが、実はここに盲点がある。上バリは、実はバラケの中心部分である。バラケは水中で溶けるエサである事を考えた時、バラケの中心ではなく、「拡散範囲からクワセまでの距離」が重要なイメージであるという認識が必要だろうと思う。「拡散範囲から」ではまだ、使うバラケによって随分と幅があるので、へらがバラケの拡散範囲の内側にいるケースを除けば「拡散範囲の境界線から」と言い換えたい。イメージだから、何センチと測れるわけではないのだが。(ここでお断りしておきたいのが、実際的水中では境界線はありえないという事。時間の経過と共に、いくらでも広範囲に広がってってしまう。拡散範囲のイメージも、図で示したような円(球)状ではないはずだし、上下ともにナジみ切ってしまうば下バリは必ずバラケの煙幕に覆われてしまう。あくまでもシンプルなイメージとしてとらえて欲しい)

### ●釣り人側の都合でへらの位置をコントロール

図1を見て欲しい。(π1)の円が始めのバラケの拡散範囲だとする。最初に、探った下ハリスの長さはC。ところが寄りか保てず、(π2)のように拡散範囲を広げた。セッティングがそのままであれば、下バリはバラケの拡散範囲の中に埋もれてしまう。もともと、拡散範囲のやや外側で見ている感じの位置にへらはいたのだから、このままではアタリは消えてしまう。広がった拡散範囲の半径W分だけ、下ハリスを伸ばせば(C')寄り、距離を両方保つ事が出来る。このパターンは経験で知っている人は多いと思う。しかし、逆のパターンはどうだろうか。抑えたバラケで寄りが保てると判断した時に(π2)から(π1)へ拡散範囲を小さくさせ、なおかつハリスも詰めることで早いなじみと明確なアタリが得られるパターン。距離感を知らなければ自信を持って試せない方向だと思う。

### ●バラケた粒子と間違っ吸わせるなら...

間違っ吸わせるイメージというのがある。積極的に「間違っせ」るならば、目立たなくても目立ち過ぎてもいけないうだろう。図1の(π1)で言えば、B点にクワセを置くのがベストだと思う。

### ●高活性時のセット

図1の(π1)のA点は、拡散範囲の内側である。ここにへらが入って来るのは、暖期が多いと思う。寒期でもへらの濃い池で、フィッシングプレッシャーが余りないようならば入って来る。同じラインにへらがいても、時期によって難度がまるで違う。

### ●「食い渋り=遠巻き」のイメージから「食い渋り=追い渋り」のイメージへ

図1の(π1)でのDのあたりが「食い渋り=遠巻き」のイメージ。上エサをシメて余り粒子を散らさないようにして、それでも近付いて来ないので下ハリスを伸ばすという感じ。低釣果の釣り。ところが、同じ低釣果の釣りでも、近年は図1の(π2)でのC位で拾って行くパターンも多い。ハリスがD方向へ伸びたとしても、へらの位置よりもタメ重視かもしれない。

### ●段差を一定に保つ短バリセッティング

距離感とは2本のハリスの段差ではなく、拡散範囲の境界線からクワセまでの距離であるが、下ハリスの長さはバラケの中心からの距離となるのが理想。つまり、ハリスのジョイント部分からでは余分な上ハリスを含んでしまうため、バラケの拡散範囲の中心が動いてしまうのだ。これでは距離も段差も崩れてしまう。上ハリスの長さがゼロに近い程落下中でも段差が保てるため、拡散範囲の中で広角に釣って行かなければならない近年、短バリセッティングは特に重要な意味を持つ。図2のアとイを見て欲しい。αとβの2本のハリスが持つ段差(VとV')は、垂直方向と水平方向で、こんなに変わってしまうのである。

図1

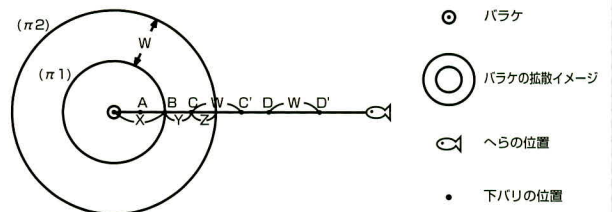


図2





## 『えな理論』

## file.3 セット釣りにおける「粒子感」

どうい素材でバラケを組み立てるかを考える時、バラケ自体をタナまで入れるための考え方はダンゴと全く同じだ。つまり魚の状態や水深に応じて、芯の大きさや比重、ネバリ、バラケ性のコントロールをすればよい。(と、簡単に書いてしまったが、普段使っているエサの特性をきちんと把握して使っていない釣り人も多いと思う。「このブレンドはいい」という感覚では、微妙な足し引きが出来ない。これは手直し派だけではなく、作り替え派にも言える事で、僕も現在ゼロから研究中) もちろん素材に頼らずとも、エサ付けの際の圧やバラケの大きさでもコントロール出来る点もダンゴと全く同じである。しかし、ここから先がダンゴとは全く違う視点が必要になる。ダンゴは目的のタナへ入れた後はそれ自体を食わせるのに対し、バラケは下バリを食わせるためのひきつけ役でしかないという点が根本的に違う。あたりまえの事のように感じるが、意識して使い分けている釣り人がどれ位いるだろうか。低活性時で上エサへの反応が弱いのをいい事に、偶然に頼ったバラケを打っていないだろうか。両ダンゴからセットへ変更し、エサがひとつになった不安から寄せを意識したブレンドに偏っていないだろうか。file.2で説明したように、「距離感」が合っていれば、もしくは下ハリスが必要以上に長い分には、そこそこ釣れるかもしれない。アタリは出るからだ。しかしヒット率を引き上げるためには、もう一步踏み込んだイメージが欲しい。僕達が「粒子感」と呼んできたイメージを紹介したいと思う。

## ●クワセのある場所へ誘導するイメージ(同調)

距離感が合っても、拡散するバラケを構成する粒子がへらの食う位置(タイミング)と噛み合っているだろうか。ぶらさがってしまえば問題ないかもしれないが、実際はfile.2の図のような円のどの位置でも地合が出るわけではない。落ち込み気味で狙うセットの場合は、下ハリスの落下スピードと粒子の漂い具合の噛み合いが重要だろうと思う。きっちりナジませてからの早めのアタリを狙いたければ漂う粒子は不要で、重めの縦バラケする粒子が必要だろうと思う。タナに入れるまでの様々な条件もあるので、自由に粒子を組み換えられる訳ではないが、気持ち的には締めエサくらいはクワセと同調しそうな比重を選びたい。

## ●へらの口を開けさせるイメージ

どうしても固形のエサを食ってくれない。どのタイミングで合わせてもカラツンでしかない。しかし、バラケにはアタリといえる動きは示さない。明らかにセットの地合だと思うのに…。こんな時は、へらの口が開いていないのかもしれない。微粒子だけでバラケを組み立てていないだろうか。試しに荒めの粒子を入れてみると好転する場合があるのだ。

厳寒期、動きの鈍ったへらは口を大きく開けない。体力を消耗してしまうからだ。というより運動量が極端に落ちるこのシーズンは、補食という行為そのものがあまり必要ではないのかもしれない。しかし、条件反射でせっかくエサのまわりに来てくれたのならば、何とかして食わせたいと思うのが釣り人の心理。クワセの大きさに近い粒子も少々加える事で、へらの口を開けられるかもしれない。

クソ忙しい10月末の某日(怒)。ひよんな事からへら鮒社編集部へ遊びに来た江成。ついでに岡田氏へコメントを頂いちゃいました。(里)

セット釣り編の完結にあたり、3ヶ月間お付き合い頂いた岡田氏に、まず感謝したい。トーナメントシーズン真っ盛りの大事な時期に、貴重な時間を割いて頂いた事を心からありがたく思います。それから、ジャパンカップの連覇おめでとう！ 公式HPで知ったけど、やっぱり！というのが第一印象でした。しかも、両ウドンの底釣りで連覇とは。これからも、本物のウッズより、ウッズたれ！

江成 公隆





Dec.2002

No.444

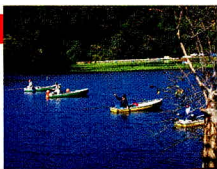
# 12

# グルテンのすべて 8

- トピックス** 30 マルキュー新製品「いもぷに」発表会 隼人大池
- トピックス** 132 2002 シマノジャパンカップ へら釣り選手権全国大会 富里乃堰
- トピックス** 136 2002年度 がまかつへらぶな チーム対抗戦 東日本大会 富里乃堰
- トピックス** 138 第16回 マルキュークラブ対抗 へら釣り選手権大会 決勝戦 椎の木湖
- トピックス** 140 第11回ペアへら釣り大会 上州屋&VARIVASカップ 椎の木湖

### COLOR (カラー)

- 4 四季を釣る ムードある秋の釣り場 三島湖(千葉県君津市)
- 14 石井旭舟の謎 《最終回》謎は解けたのか… 三島湖
- 20 小池忠教&伊藤洋一のHIGH VOLTAGEで釣りまくれ!! 《最終回》難攻不落。横利根川で釣りまくれ!!
- 33 戸張 誠がズバリ回答 例会作戦①場所②エサ③仕掛け 《最終回》椎の木湖(埼玉県羽生市)
- 38 40cm上べらで勝負!ショーブ!! 山内研作VS生井澤 聡 《第12ラウンド》印旛沼(千葉県印旛村)
- 44,112 列島縦断・旅するカメラ 《千葉県27》袖ヶ浦～木更津 原田のセキほか
- 113 対決mode 1, 2, 3! 棚網 久 《Battle.21》対決モード突破記念 久保芳文スペシャル!! 椎の木湖(埼玉県羽生市)
- 119 杉山達也のSPLASH BEAT 《最終回》富里乃堰「長竿両グル」でスプラッシュ!
- 124 熱血釣り女・吉川ひとみがいっく「へらってヤバイわっ!!」 《第6回》「やっぱり雨の新潟遠征!!」 下条川ダム(加茂市) GUEST:石井旭舟さん 長谷川勝彦さん 小柳康秀さん
- 142 上州屋グループへら鮒用品充実店紹介 《第25回》キャンベル練馬南田中店(東京都練馬区)



- 98 読者投稿 台湾日鯽釣事情 前編
- 158 第16回 放流協賛 横利根川へら釣り大会
- 162 田辺哲男のへら釣りセミナー 鬼東沼
- 168 2002NBCへらぶなトーナメント第2戦 清遊湖
- 169 日研・全放協 放流日程表

### MONOCHROME (モノクロ)

- エリアレポート
  - 50 大石の新堀(佐賀県) 河口正伸
  - 52 赤祖父湖(富山県) 山本一朗
  - 53 隠谷池(和歌山県) 前田誠志
  - 54 佐屋川・温泉前寄せ場(愛知県) 後藤 誠
- 55 続・野釣り場漫遊記 江口正弘 《最終回》釣れる!! 須賀谷のセキ(千葉県夷隅町)
- 60 四季対応の攻略法! 富永 勲のダンゴ一直線! 《最終回》寺山沼(埼玉県さいたま市)
- 64 北城 錦さんがガイドする 隠れた釣り場 再発見 《最終回》上の島新川&小野川(茨城県東町/江戸崎町)
- 69 ガッツ小林が攻めまくる 若さとファイトの激釣記 《第5回》柳生FP(群馬県板倉町)
- 72 レディース版 釣り場ガイド キャサリン 《最終回》富里乃堰(千葉県富里町)
- 74 荘野諒雨が身を犠牲にして教育係を務める 総合50位からの脱出 《最終回》筑波流源湖(茨城県八千代町)
- 78 水辺のプラネタリウム 吉本亜土 《最終回》竿頭
- 84 八百八釣 へら日誌 天野正由 《最終回》釣りに悩んで 夢はフィールドを駆けめぐる 相模川&奥多摩湖



ワクワク管理釣り場情報	90	プレゼント発表	181
小売店情報	94	釣果予想クイズ	182
野田幸手園新聞	102	データサロン	184
読者のページ・VOICE	170	広告索引	191
情報地獄ミミ	178	編集後記	192

新連載!

※「STAGE 21TH 野べらを求めて」は都合により、今回はお休みさせていただきます。



平成14年12月1日発行 (毎月1回1日発行) 第37巻第12号 昭和41年5月4日第三種郵便物認可  
MONTHLY FISHING MAGAZINE SINCE 1966



# HERA BUNA

Dec.2002

No.444

12

**特集** 冬の食わせエサを制覇する!!  
①グルテン編  
**グルテンのすべて**

隠れた釣り場 再発見・北城 錦／上の島新川&小野川  
40cm上べらで勝負! ショーブ!! 山内研作VS生井澤 聡／印旛沼  
小池忠教&伊藤洋一のHIGH VOLTAGEで釣りまくれ!!／横利根川  
ガッツ小林が攻めまくる「若さとファイトの激釣記」／柳生FP  
例会作戦①場所②エサ③仕掛け・戸張 誠／椎の木湖  
杉山達也のSPLASH BEAT／富里乃堰  
富永 勲のダンゴ一直線／寺山沼  
石井旭舟の謎／三島湖



「感嘆より重く、わらびウドンよりやや軽い。  
この重さが、感嘆に欲しかったんだ——」。

セットシーズン、到来。

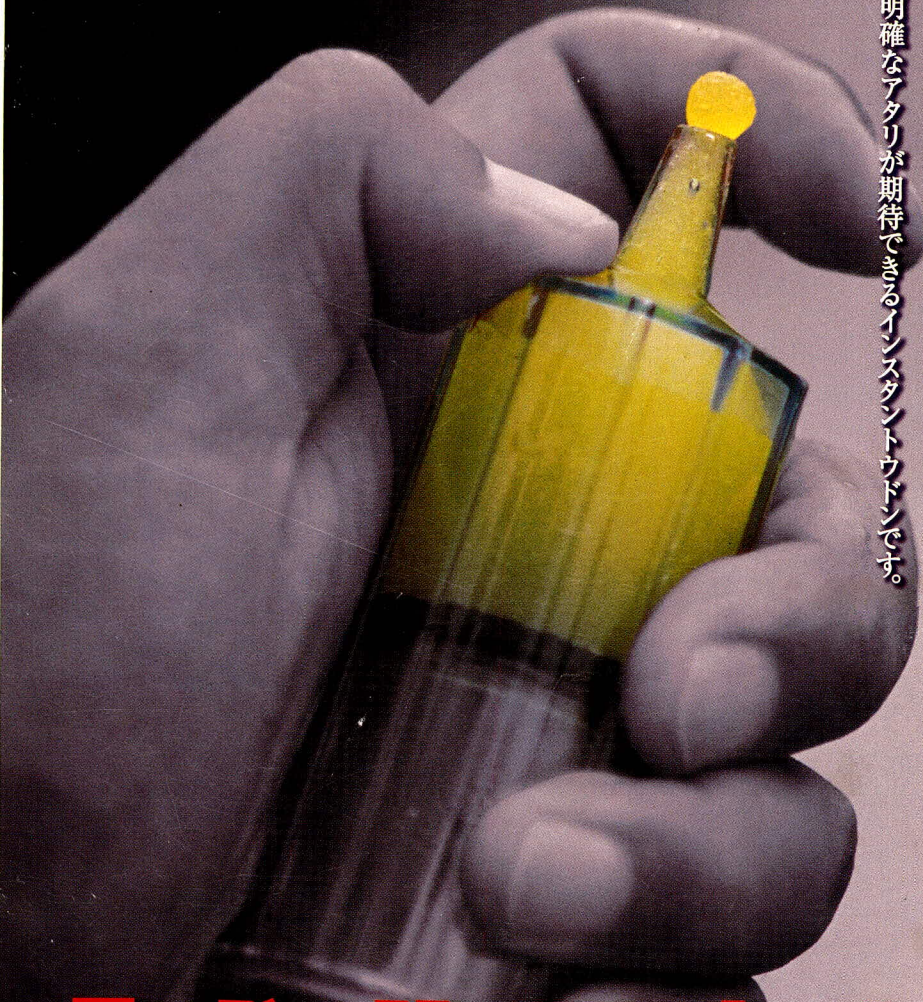
低水温による低活性でも、へら鮒を誘い、くわせるのが「感嘆」。

その「感嘆」に今回、姉妹品となる「感嘆Ⅱツ」が新登場します。

ハリスが張るぐらいの、「感嘆」よりも重いタイプの新製品。

欲しいときにサッと作れる簡単さはそのままの、

「カチッ」とした明確なアタリが期待できるインスタントウドンです。



# 「感嘆Ⅱ」、新登場!!

## 使い分ければパーフェクト! 重さが違う2つの「感嘆」!

釣り場で簡単に作れ、オカユボンブで使えるわらびウドン感覚のくわせエサ「感嘆」。

その「感嘆」に、新たな仲間「感嘆Ⅱ(ツ)」が加わります。

「感嘆」より重く、わらびウドンよりもやや軽い重さでハリスを張らせ、

はつきりとした食いアタリが出るのが特長。

特にこれからの、ハリスを長くとる機会が多くなる時期にはメリット大。

黄色く仕上がってへら鮒の視覚にアピールし、ダレにくいので、オールシーズン使えるのも魅力です。

遠ダナのセット釣りはもちろん、チョーチンや段差の底釣りにもマッチ。

重さの違う2つの「感嘆」を使い分けることで、よりハイレベルな釣りをお楽しみください。

●感嘆Ⅱ(ツ) ¥350

11月上旬新発売!



つれるエサづくり一筋  
**丸マルキュー**  
<http://www.marukyu.com/>

本社 桶川工場 埼玉県桶川市赤堀2-4 〒363-8509 四国営業所 香川県坂出市西大浜北3-4-33 〒762-0053  
TEL: (048) 728-0909(代) FAX: (048) 728-3909 TEL: (0877) 44-0909(代) FAX: (0877) 44-3909  
大阪支店 大阪府寝屋川市桶根南町12-14 〒572-0811 九州営業所 佐賀県鳥栖市姫方町341-8 〒841-0023  
TEL: (072) 824-0909(代) FAX: (072) 825-0909 TEL: (0942) 82-0909(代) FAX: (0942) 83-0909

釣り場でエサに困ったら  
iモード・ホームページ  
<http://www.marukyu.com/i>



定価 1,000円 本体九五二円